

負担の先送り

加古川市立山手中学校3年 秋田 美乃里

「このままだと、日本はどうなってしまうのだろうか。」税について調べたとき、最初にそう思った。同時に、「自分の暮らしに関わる税のことを全然知らなかつた。」とも思った。

今の日本の社会保障水準は、外国に比べて良い方である。しかし、それを継続すると、国民の負担が大きくなってしまう。それは、現在の日本は、少子高齢化社会になっているからだ。社会保障のためにかかるお金は増えていく一方、働き手が減っている。では、なぜ税金を高くしなくてもよいのだろうか。それは国債を発行しているからだ。国債とは、国の借金のようなものである。そして、年々国債金の割合は大きくなっている。つまり、借金の返済を先送りにしているのだ。今の日本は、国の規模のギャンブルに手を出し、抜け出せなくなってしまったようなものだろう。減っていく働き手、増えていく収支と借金、この差は広がっていくだけになってしまふのだろうか。では逆に、国債を発行しなかった場合、日本はどうなっていたのだろうか。おそらく、国民の負担は、大きくなるだろう。そして、国民の不満が高まり、政府に反対する声が多くなっているのではないか。その状況は、国として、良くないことであり、信頼をつくりあげることはできないだろう。他に良い方法はないのだろうか。

この現状を改善していくには、一時的ではなく、未来の見通しが良い政策をとらなければならないと思う。まず、少子高齢化社会にならないようにする必要がある。例えば、子育てのしやすい環境を、会社等で整えることだ。育休を、男女とわざとりやすくすると良いと思う。次に、社会保障制度の見直しをする必要がある。例えば、医療や介護での、国民の負担を大きくするが、許可をとれば、今まで通りで良いようにすることだ。最後に、高齢者の方の仕事を少しつくる必要がある。例えば、交通整備等の仕事を、高齢者の方がやりやすいものは、高齢者の方にしてもらうことだ。認知症の予防にもなって一石二鳥ではないだろうか。これから日本が、少しでも良い方に傾いていってほしいと思う。

税の問題は、思っていたより大きく、難しいものだった。しかし、知らないままでいるほど、怖いことはないと思えた。だから、これから、もっと知っていこうと思う。未来の日本や自分のために、できることはあると思う。自分も一人の日本国民ならば、この問題を考え、改善していくべき一人でもある。一人ではできないが、一人でも多くの力が必要だと思う。